

守田 守男

フリーの風(現場)からの風

(19)

光局在職中に企画した印象に残るイベントだ。白馬の自然を宣伝告知するため「花」に注目。今では、グリーンシーズンに無くてはならないイベントに成長している。だが、企画段階で、万全の植物園として整備してから開園したい地元と、観光企画として、他の地域より早く告知し

たい観光局との調整、エスカル・ラザの通路で社長と、多くを語り合った事を今でも印象深く思い出す。

6月下旬、「白馬A1 P.S.花三昧」特別企画の白馬五竜高山植物園の鑑賞会に家族で参加する。「白馬A1 P.S.花三昧」は、白馬村観

花三昧」メイン会場としてスタート、学術的な意味合いを濃くして、国際的に通じる植物園を目指し「白馬五竜高山植物園」へと名称変更、2013年5月には、長野県初の日本植物園協会に加盟。今年6月には秋篠宮殿

デ内に造設された会場は、人工植物園そのものだった。だが、今は存在だがこの虫が、姿に企業の努力と地域関係者の熱意ある取り組みの積み重ねなのだろう。高山植物生態園スイスアルプスヒマラヤエリアで除草作業

花三昧」メイン会場としてスタート、学術的な意味合いを濃くして、国際的に通じる植物園を目指し「白馬五竜高山植物園」へと名称変更、2013年5月には、長野県初の日本植物園協会に加盟。今年6月には秋篠宮殿

下で臨席での「公社」日本植物園協会の第51回大会・総会も開催された。植物園に久し振りに訪れるところ、驚きの植生が広がっている。開園当時、スキー場のゲレン

雪線より下の地帯だった事。山岳では、高度が1000m増すごとに、平均一度の気温が低下する事。朝晩の気流により、植物垂直分布の特異性が発生する事など次々と思いつく事など次々と思いつく

して、中西滋さんと久し振りの出会い。中西さんは、山案内人や観光で知る間柄。退職しても、植物園を限りなく自然のままにし、同じだと、満面の笑顔。その姿に家族に爆笑される。何気なく使う「高山」、「高山帶」

す。現場に出掛け、自然環境。作業や鑑賞には、厄介な存在だがこの虫が、虫よけ対策をしながら楽しんでほしい。久し振りの高山植物の鑑賞。長野県山案内の試験で学んだ事を思い出す。高山植物を見つけては、これは……」、近くの立て札に記載された名前と同じだと、満面の笑顔。その姿に家族に爆笑される。何気なく使う「高山」、「高山帶」

す。現場に出掛け、自然環境。作業や鑑賞には、厄介な存在だがこの虫が、虫よけ対策をしながら楽しんでほしい。久し振りの高山植物の鑑賞。長野県山案内の試験で学んだ事を思い出す。高山植物を見つけては、これは……」、近くの立て札に記載された名前と同じだと、満面の笑顔。その姿に家族に爆笑される。何気なく使う「高山」、「高山帶」



標高3000m以上で育つ、青さ際立つ「ヒマラヤの青いケシ」、定植で無い芽をうれしそうに教える中西の笑顔が素敵だ

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)